

## 平成22年度 NPOと行政の協働会議 第1回全体会

日 時：平成22年5月18日（火）16:00～17:30  
場 所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室  
出席者：【NPO部会】黒田、山崎、前川、能島、田中、中村、河口  
          【行政】川村、宮崎、大塚、佐伯、藤原  
事務局：室崎、高橋、是川、多田、野倉、秋澤、菅長、北村  
ワグザバー：2名

（※敬称略）

### 1 開会挨拶

- NPO やボランティアグループの長きにわたる努力や色々な経験を語り継いで、行政や県の評価や予算の実績はリセットすることなく取り組んでいきたい。県とプラザに人事交代があったので、まずは挨拶をさせていただきたい。
- 県民局からこの4月に赴任してきた。県民局以外でも業務でみなさんと関わることがあった。これからはよい事業を一緒に行っていきたい。
- 15年前の阪神・淡路大震災の教訓で、市民が積極的に地域作りの中に参画するという根はしっかり生えている。ただそれで満足してはいけない。アメリカに比べるとまだまだ日本の力は弱く、もっと力をつける必要がある。力が弱いのは行政の責任か、日本社会が持っている問題なのか。協働会議も10年目となり、次の10年に何をすべきか、特にこの1年でその方向性を検討していく必要があると感じている。小森前所長のひかれたルールを踏襲しつつ進めていきたいと思う。

### 2 協議題

#### (1) 今年度の事務局について

- まずは今年度の事務局を決めたいと思う。立候補する団体があれば挙手して下さい。ブレンヒューマニティーより挙手があったので、お願いしたいと思うがどうか？
- 自主的に手を挙げられたと思う。私も従来通りでいいと思う。このような簡便な事務局の決め方というのは、他の所でもぜひ適用し広まっていけばいいと思う。馴れ合いは困るが、公開の中で皆が決めていくという方法もあっていいのではないか。
- 今年度はブレンヒューマニティーにお願いすることとする。

#### (2) 今年度の協働会議の運営、年間スケジュールについて

- 10年間を考える上でこの一年が勝負と話があった。その話の上で、皆で運営を考えたいと思う。
- 総括会議の議事録を見ると、「NPOが胡散臭い」という言葉があった。この10年でその胡散臭さが消えたかということそうではないというのが正直な所である。むしろ逆に増したと捉えられてもおかしくないかもしれない。これからの10年をどうするか考えた時に、NPOがNPOの信頼性をどう高めていくかを考えていかなければならない。例えば、東京方面ではエクセレントNPOの認定制度がある。兵庫県でもNPO法人の情報開示があり、それ以外にも仕組みや働きかけが必要だと感じている。2点目としては、昨今民主党政権に代わり、NPOにも追い風が吹いている。鳩山首相が言う「新しい公共」の概念には賛否両論あるが、NPOにとっても考えないといけな

い論点の一つだと考える。特にその関連の流れで言うと、一つは寄付の税額控除がある。NPOはその寄付控除の税制の中でどう歩いていくか、この10年間で考えていくポイントの一つでもある。胡散臭さとその寄付をどう調達していくかというのとはともリンクしたものである。

前年度からの継続としては少し振り返りをする必要がある。前年度については、「つながり」「委託・指定管理」「中間支援・マネジメント」ワーキンググループで議論をしてきた。つながり部会では、NPOと地域、NPOと社協、NPO同士のつながりをどう形成していくかについて、委託部会ではその制度やあり方について、中間支援部会では情報公開システムの構築について議論した。今年度の運営を考える上で、前年度の3つの視点と、信頼性の確保、寄付税制等をそれらに追加していければと思う。

- 中間支援の担当をしていたが、まだまだ課題がある。現在地域で中間支援が設置されているが、公設公営のところが多い。指定管理においては従来の運営協議会的な公設NPOが設立されることがある。ただ本来のNPOは一つのミッションを持つべきものが、単に組織的にNPOであればいいと考えられている。今後、それがどのように展開されていくかをみる必要がある。もう一つ「協働」というテーマでは、県民局や市町における協働が、実質的には補助や委託のみとなり、本来の協働事業がなされていない問題を感じる。一つのモデルがあればと感じており、そういったものが今後の協働会議で議論され模索されればと思う。
- 会議もマンネリ化している部分があるが、一方で情報発信ができてきている側面もある。総括会議も経た上で、今の状況を踏まえて、もっと今後を根本的に考えていく必要がある。協働会議自体も地域でミニ版ができたりする。新しい公共の話もあり、NPOのあり方も考える時期となってきた。CS神戸でも協働の議論を進められているが、本会議でも今の状況についての議論に加え、今後の方向性を議論する必要がある。
- 部会自体をどうするか？そこも踏まえた議論ができればと思う。協働と言っているが、本当の協働の定義づけもしたこともない。皆がどのように協働を考えているか、フォーラムで話したことも取り上げながら、この1年間で検証していければと思う。
- 新しい公共性~~性~~の話もあったが、今までの10年間から少し脱却して、本腰を入れてこの一年で新しい取り組みができればと思う。「つながり」「指定管理」「中間支援」という部会の分け方にも一つの限界を感じている。兵庫県では「NPOと行政の協働会議」ということで、県とプラザ、NPOのそれぞれの役割がうまく繋がるような議論をするテーマとして、資金と人材の問題について協議し、NPOをどう強化していくかについて、絞って考えた方が分かりやすいと思う。資金調達で言えば、先程あった寄付文化をもっと広め、寄付が入りやすい仕組みを兵庫県につくる。お金の問題についてはプラザが一手に担ってきたが、市民自らが集める工夫も必要である。人材という所で見ると、県の1500のNPO団体にリーダーが育っているのか。また次にNPOを新しくやってみようという者のリクルーができていくか。そういったところでは、もっと市町との連携、各地域団体との連携の中で積極的にやっていかなければならない。リーダーシップマネジメントについては、NPO大学等でバランススコアカードを使ってやっているが、まだまだである。NPOを持続していくために、お金と人材の問題を限定してどう取り組んでいくのか、活動資源に絞り込んだ部会を持った方が有効だと考える。実態を積み上げながら、連携論に入っていく。こうあるべきと言っても、実態がない限りは何も進まない。兵庫県のこのメンバーができる連携を考える。
- ぜひ情報も足すと面白い。資金、人材、情報。これで強化される。

- 政権交代後の「新しい公共」を勉強しているが、NPO がその担い手になっているかは考えていかねばならない。関東ではその議論が進んでおり、やはり兵庫県の NPO がなぜ発信できていないかに憤りを感じている。「新しい公共」の担い手としての人材育成や資金調達を考えていく。先程の3つに信頼性を加えた4つというのは、「新しい公共」の担い手として絶対必要となってくる。それをこの場で発信していければと思う。
- 本会議は予算がないという前提で、議論を重ねるものの、なかなか成果物が生まれにくい。もっと中身のある選択会議的なものが組み立てられればと思う。現場のことを言うと、新しい会計基準の浸透についても、NPO 法人係と協働会議のそれぞれが担う役割が具体的にあるのではないかと思う。他地域の行政ともお話をしたが、兵庫県はかなり丁寧にチェックされている。他府県では計算が間違っている、とにかく提出すれば OK だと言えるくらいのももある。なかなか議論がかみ合わなかった。官庁のため、提出するために作成しているという感覚が強い気がして、そのところが NPO 法そのものと照らし合わせてどうかと思う。手引き書そのままの様式で作成しているところが100%である。そのあたりが NPO 法人のクオリティーを上げる手始めと感じる。やはり会議でも選択的なところと、具体的なものとの両方が必要となる。
- 県の西の地域から来ているが、協働のあり方がごく一部でしか議論されていない西部や北部の地域と比べるとこの神戸地域は進んでいる。連携や情報交換の中で、地域でいかに情報を伝えるかで変わっていくのではないかと思う。姫路でも協働についての議論がまだまだできていない。この会議でどのように伝え広めていけるかを考える。
- 今日には行政からは地域協働課のみで、他の部局は来っていない。新しいセクションがない。復興支援課、しごと支援課、ビジョン課、教育委員会などがなくなった。担当者も代わる中で、協働会議の意味が薄れてきている。NPO との協働という言葉も知事の中にはあり、個別相談も沢山ある。もう一度、県庁全課、県民局に対し、地域協働課中心に本会議への参加の投げかけしてはどうかと思う。民主党政権になり、NPO に期待されるものも多い。行政と NPO が協働する時代となり、行政も悩んでいる。特に会計基準の見なおしについても、新しい考え方の議論も始まっている。プラザも地域協働課も全国の議論に仲間入りして、NPO が動きやすいような会計システムについて考えようとしているところである。地域協働課に負担をかけるが、NPO 側も熱心に取り組んでおり、この気運を下げないよう取り組んでいければと思う。
- 今年、県庁に横串をさすような新しい課ができた聞いた。
- 総合政策室長など部局横断的な室はあるが、その手足となるような専属の課がない。
- どこかが専属の課になってもらえれば。横串をさす視点でセクションができたことはとてもいいことだと思う。それが活かされるのがこういう協働の場である。もう一つは、呼びかけ先として NPO サイドが中間支援だけだが、ここにもう少し社協系の中間支援や生協が入り、非営利セクターの中でも幅を広げればと思う。ただ会議名に NPO と書かれているので当てはまらないかもしれないが。
- 基本認識として新しい公共のあり方については、地域協働課としても十分に認識している。まず NPO の信頼性を高めるということについては、この4月からの情報公開サイトの開設があり、NPO の評価に関連して言えば、コラボネットと連動して、リンクするシステムを作り、事業活動内容を広く発信できるようにしている。会計基準の問題については、近畿ブロックの NPO 法人担当課長会議があり、内閣府も入っ

ているので、収支計算書や管理費等の取り扱いについて議論していく。6月に開催されるので7月に報告できればと思う。

- 2年間関わっているが、情報公開については実現できてよかったと思う。その他議論は多くしてきたが、研究のみで終わっている。NPO側に何のメリットがあったかは今一つ分からないところである。人を確保したり、寄付を含めた資金を確保できたりするなど、全国に誇れるNPOを育てられればと思う。NPO自身の信頼性の強化などをここでやっていければと思う。議論だけに終わらない形の方がよいかと思う。
- 教育委員会等が入っていた時には、具体的な中身の議論まで行っていた時期もあった。これまでの取り組みを踏まえて変化していく必要があるかもしれない。
- 法律に基づき提出している会計書類があるが、兵庫県では丁寧にチェックしている。他府県はどのような状況なのか。NPOの情報公開も進んでおり、色んな方の目に触れることとなった。いかげんな会計報告もインターネットで見られる状況である。NPOの信頼性にも関わってくる。他府県と比べても、兵庫県が最も丁寧に厳しい。兵庫県には全国第6位の1500のNPO団体がある。ただ職員も増えておらず、もっと簡単にできる方法がないかとも思っている。一方で寄付税制の話もあり、もっとNPOへの社会的信頼を求める声も大きくなると思われる。チェックをより厳しくしなければならぬ状況も今後求められてくるのではないか。もう一つは、NPO法人の法律に基づく権限を政令指定都市に移譲するという動きがある。早くて2年後に移譲される可能性がある。
- NPO自体が寄付をもらうにあたり、公共のお金をもらうと同様に、もっと勉強し切磋琢磨していかなければならない。それができないNPOは淘汰されても仕方がなく、その視点を持てなければ今後は駄目だろう。何の力を身につけるかについては情報もなかなか入ってこないで、自分で見つける必要がある。その切磋琢磨できる場が今はない気がする。行政に対する要望とするのではなく、公共を担える力を自らつけたいというNPOがどうしたらできるかを、本協働会議で考えたい。チェックを受けたからと言って力が付くわけではない。
- その意味では中間支援組織のあり方が重要となる。勉強会や講習、セミナーなどをよく開いていただいている。ただ一方で、2割ぐらいの団体が事業報告書等の法律に基づく書類を提出していない事実がある。2回督促をしているが、結果として5%ぐらいには過料通知を出すこととなる。
- 質を高めて営利企業等の他の業界と肩を並べる必要があるものの、一方で年間予算規模が10万円程度のボランティア活動が多いのも事実である。後者に厳しい会計を求めると、もうNPOをやめようということになってしまう。その強化しようという動きと、今あるボランティア活動をもっと支えようという動きの両者について考え議論していく必要がある。
- 立ち上げの時は高い志もあるが、認証がゴールだったのかなと思えないこともないような団体もある。10数年間活動しているということ自体すごいと思う。ただ設立した以上は、活動を続けミッションを実現できるように取り組んでほしい。一方で行政側もNPOということでシャットアウトしていることもあるかもしれない。本当であれば、NPOの力を借りればもっとうまくいくセクションもあるかもしれない。少子や環境などはうまく連携できている。他にも多くのセクションがあり、もっとうまく情報交換できるようになれば、協働というものがもっと進んでいくと思う。“協働”は言葉で簡単に言えるが、具体的にを行うのは難しい。でも間違いなくこの1

0年で進んでいると思う。

- 資金調達や人材育成の話をする前に土台の部分をどうするか、先程県から報告があった1500団体の内の2割をどうするかを考える必要がある。情報公開が進むと自然淘汰は当然行われていく。それが本来のNPOの姿である。行政から指摘されなくても、市民同士が互いに指摘していく。せっかく立ち上げたので続けていこうという話は一切いらない。色んな目的で立ち上がったと思うが、潰れるものは潰れるで仕方ない。先程兵庫県でのチェックの話があったが、公開されるわけだから、誤りのままで出す方が親切だと思う。市民の中で自分の立場を自覚されるのでいいことだと思う。自然淘汰とともに、その2割の団体に対して、緊急雇用の方を使いヒアリングを行ってもいいのではないか。活動だけは続けたいところへは社会福祉協議会を紹介してつなぐなど、そういう丁寧な整理を市民同士ができるのではないか。
- 実際にヒアリングをやってみたが相手が見つからない、余計なお世話など、あまりいい反応がなかった。団体も無理をしている。淘汰される方がよい団体もある。行政はやりにくいので、中間支援が終わりの話をしにくいのもありだと思う。
- 総会を開き、定款に基づいて任意解散することは簡易である。3年間報告書を出さなければ、県が法定解散することもある。
- マネジメントを言うと企業みたいになり、労働組合とかが出てくる。ユニークなことをやっている団体は、そんな企業的なことは嫌で、逆に負担になっている部分がある。意識的にマネジメントはやりたくないという所もある。NPOということでも理にくくり、全体を引き上げるというのは難しい。NPO法人としてきちっとやっていく所と、ボランティアに戻っていく所を分けて考えないと、方向が出てこない。
- 一旦解散すると地域社会から信用もされなくなると思われているが、そうではなく任意団体になっても役割があるという考え方のバイパスを作る必要がある。失敗してもまた活動場所がある、そういうポジティブなイメージが必要である。それが新しい公共のあり方。
- NPOを作る相談はあるが、その後のマネジメントの相談がなく、自主性に任せられている。スタートから苦しむようなNPOもある。作るときは会社を作るのだから、収支も考える必要があるとアドバイスもできる。辞めたいという相談も増えているが、ミッション自体はとていいことをやっている。儲けてはいけなないと思こんでいる部分がある。アドバイザリー事業が欠けている。ところがNPOについての相談業務をできる人が少ない現状もある。
- 企業であれば中小企業診断士がいるが、NPO大学受講者などがNPO運営アドバイザーみたいなものになり、支援をしていけないだろうか？
- NPO大学はそこまでレベルが追いついていない。継続指導ができるように、制度としてもしっかりとしたものにしていかないといけない。助成金もとれるかとれないかも分からず予定が組めない。
- 中間支援組織も設立の際には同行し、その後のフォローもしている。ただそうでない団体へのフォローが必要となる。
- 分からない人をどうするか。本当に力がなければ辞めてもいいと思う。
- 一般社団なら報告義務がない旨を伝えている。ただ設立の際に15万円ほどかかる。
- 非営利活動促進法があるが、促進するだけで、法人を保護するものではない。今後考えていく上では、本日提案のあった資金、人材、情報、信頼性の確保の4つが重要だろうと思う。この視点で2年間に渡って検討していければと思う。テーマ以外の話

では、行政側がもっとバラエティに富んだメンバーになれば、もう少し議論の幅が広がると思う。個人的な意見では、予算が許せば県内の1500の団体の全法人にアンケートをとり、NPO側の現状の課題や協働の捉え方を聞いてみるのもいいのではないかと。10年の節目なので聞いてみるのもいいと思う。

- 4つのたて方だが、並列的なものではない。土台にNPOの基盤整理があり、その上に信頼性・信用性があり、その上に資金・人材・情報がくると思う。コミュニティビジネスをやっている630団体に調査をしたことがあるが、なかなか返ってこない。実際行ったらよく答えてくれる。アンケートで取れるようなことは情報公開されているので捨てる。答えてくれないところを丁寧に聞きに行く。
- プラザとしては、ネットワークづくりを考えてほしい。やはり地域の連携はあり、社協や生協とNPOの連携をどのように支援していくか。阪神間は進んでいるが、まだまだ郡部は連携して取り組むに至っていない。地域の力だけでは難しく、支援が必要である。ネットワークづくりは一つの役割だと思う。
- 資金や情報も課題ではあるが、ネットワークができればある程度解消できる部分もある。姫路でもネットワーク会議ができ、意義があると感じている。地域のネットワークで解消できないことに当会議に持って協議すれば、またそれらのネットワークが繋がっていくことになると思う。
- 本会議ではここでしかできないことに絞り込む。今日出たテーマを基に、幹事でたたき台を作成し、次回会議で話し合えればと思う。ペーパーがないと1回1回の議論が進まない。確実に次のステップに進めていければと思う。
- 各項目（資金、人材、情報）に対して、随時NPOや行政を追加していてもいいと思う。
- 次回はたたき台を基に話を進めていきたいと思う。皆さんからも色々な意見をいただきたい。

### 3 その他報告

- この6月からNPO交流サロンに、NPOの方から協働スタッフとして1人来てもらう予定である。セミナー室で事業もしてもらおう。
- プラザの人材が減り、新しいNPOの人材を発掘する場、またNPO同士の交流の場として、実験的に勉強する場を提供できればと思っている。プラザからも2名のスタッフが入る。今年度はモデル的に実施する。
- 協働会議の予算を明らかにし共有する必要がある。総額と使用用途について共有したい。前年度決算と今年度予算を次回7月の会議で見たいと思う。
- 昨年も6月3日に市町社協と行政とNPOで合同会議をしたが、その発展バージョンとして、今年も7月2日にクリスタルホールで開催したいと考えている。今回はCSRについて議論できる場としたいと考えている。災害時に強い地域づくりのようなものを取り上げる。所長の基調講演の後、「ボランティア活動」「CSR活動」の2つの分科会を行い議論する。時間は13:00から16:40ぐらいを予定している。また正式に決まれば案内したいと思う。

#### 次回開催日

日時：平成22年7月22日（木）16:30～18:00

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室